

# 新たな感染症とともに ワクチン情報号



先日は、中学生のお子さんをお持ちの保護者の方々に「子どものワクチン接種に関するアンケート調査」のご協力をいただき、ありがとうございました。

すでにワクチン接種を済ませた子どもたちもいると思いますが、ここで一度、この病気とワクチンに関することを整理しておきたいと思い、リーフレットを発行します。

我々医療者は、とにかくワクチン接種を勧めがちです。しかし、今回のコロナワクチンは少し特殊な状況、背景があり、慎重に考えなくてはなりません。それゆえに、できる限りの疑問に答えたいと思っています。

リーフレットに載せきれなかったQ&A（アンケートに寄せられた質問に対する回答）については、右のQRコードを読み取ってご覧ください。



新型コロナウイルス感染症対策検討会議

## Q1 新型コロナワクチンを接種する場合の注意点について教えてください。

### 1) 高い確率で副反応が起こります。

コロナワクチンは、これまでの定期ワクチンとは少し異なり、高頻度で副反応が起こります。通常、2回目の接種後、数時間から数日の間に発症します。

症状は、発熱（30%）、倦怠感（60%）、頭痛（60%）、接種部位の疼痛（80%）等がありますので、解熱鎮痛薬を準備しておいた方が良いでしょう。ファイザー社製ワクチンよりもモデルナ社製ワクチンの方が副反応は強い傾向にあります。

接種後の副反応で学校を休む場合は、出席停止となり、欠席扱いにはなりません。



### 2) 稀に重症の副反応が起きることがあります。

コロナワクチンの副反応として、稀に「心筋炎」が起こります。

頻度は報告によって差があり、若年男性、2回目の接種後、接種後2日目～4日目に多い傾向があります。症状として、最も多いのは胸痛、他にも息切れ、胸部違和感があります。接種後、1週間程度の間に同様の症状があれば、医療機関に相談、受診してください。

本来、「心筋炎」は注意すべき病気ですが、ワクチンに関連した副反応事例の多くは軽症で、大きな治療をせずに経過しています。ただし、発症者の2%程度に重症事例が報告されています。

### 3) ワクチン接種後も感染症対策は続けましょう。

ワクチンには感染予防、重症化予防の両方の効果があります。

ワクチン2回目接種後、7日を経過すると発症予防効果が得られます。しかし、接種後4か月以降は急激に抗体が下がり、2回目接種後5か月から7か月で20%まで低下します。

重症化予防については、接種後6か月間は高いワクチン効果が維持されています。

残念ながらワクチン接種後も感染する場合がありますので、基本的な感染症対策（マスク、換気、手指衛生等）は継続しましょう。



## Q2 新型コロナワクチンを接種しない場合は、どんなことに注意したらよいですか？

- 1) これまでと変わらず、基本的な感染症対策（マスク、換気、手指衛生等）を励行してください。
- 2) 多くの場合、子どもの感染は家庭内感染（成人発端）です。つまり、家庭内の成人がワクチン接種をすることで子どもたちの感染予防ができます。同居する成人の方は接種をお願いします。

英国などの海外で、先行接種した医療従事者と同居する未接種家族の感染状況を評価したところ、未接種者の感染リスクが半分に下がったという報告が複数あります。大人のワクチン接種で未接種の子どもの感染リスクを下げるができるのです。

- 3) ここ数か月だけでもワクチンの効果や副反応に関する新たな論文が数多く報告されています。今後も国内外から出てくることが予想されます。情報にはアンテナを張っておきましょう。

受験の前に打ちたい！

副反応が怖い……



子どもがワクチンを接種しないと判断しても、それは決して非難されることではありません。子どもは重症化しづらく、感染伝播においても主役ではありません。日本のような感染レベルで、どこまで子どもへの接種の意義（個人、集団）があるのかもまだ分かっていません。現時点では「接種する」「接種しない」両者の判断が尊重されるべき状況と言えます。子どもたちにもそれぞれの考えがあると思いますので、いずれの場合も、相互尊重の精神で前に進んでいきましょう。

## ワクチンをめぐる海外の動向

### 1) 英国の議論

10月10日現在、英国は世界で4番目（人口当たり21番目）に感染者が多い国です。しかしながら、その英国で、12歳～15歳への接種について国家で慎重な議論を重ねていました。最終的に9月14日に1回のみ接種を行う方針で決定しました。

ちなみに日本の感染者数は世界で25番目（人口当たりでは144番目）、12歳～15歳への接種を決定したのは、5月31日と迅速でした…そこに、子ども目線の議論はあったのでしょうか。

### 2) 北欧のモデルナ対応

北欧では最近、モデルナ社製ワクチンを接種した若年男性で心筋炎の頻度が高いという研究結果が出たため、10月に北欧各国ではモデルナ社製ワクチンの接種が中止や非推奨となりました。近日中に解析結果が公表される予定です。なお、10月に発表された権威ある医学雑誌でも、10万人に10数人という高い頻度で、若年男性にワクチン関連の心筋炎が発生していることが示されています。富山県の12歳～15歳の男児が全員接種した場合、2人程度発症するという頻度の数字です。

検討会議は、引き続きコロナ関連の情報提供を続けていきます。  
これまでに発行したリーフレットは、市学校保健課、各学校(園)のHPで見ることができます。  
【事務局】富山市教育委員会 学校保健課 (TEL 443-2136)